

地球科学輻合ゼミナール

(2012年度 前期 第8回)のご案内

応力逆解析における計算機の利活用

佐藤 活志

京都大学 大学院 理学研究科 地質学鉱物学分野

地質時代から現在に至る地殻応力状態の解明のため、断層や岩脈などの地質構造や、地震の発震機構解が手がかりになる。それらのデータの解析手法として、応力逆解析法は構造地質学と地震学の両分野で開発・改良が進められてきた。近年の方法論的進歩は、計算機の高速度化・大容量化に代表される情報技術の発展によるところも大きい。本講演では、応力逆解析の精度評価、高精度化、高速化といった技術開発研究とその応用例を紹介する。

「逆」解析の技術開発が進む一方で、「順」モデル(フォワードモデル)の検証も進める必要がある。逆解析法は結果(断層)から原因(応力)を求める手法であるが、フォワードモデル(原因から結果を予測できる)という仮説に基づいている。本講演では、応力逆解析における仮説の妥当性を検証するための数値シミュレーションの試みも紹介する。

6月13日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 303号室